

## 質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 トナムIC工事

### 質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	単価番号174～176. 高盛土対策工(水平排水層、基盤排水層、のり尻工)で使用する材料は購入材、現地発生材のどちらを想定しているのでしょうか。	購入材を想定しています。
2	単価番号30. 表層排水工で使用するマット材料(砂)は購入材、現地発生材のどちらを想定しているのでしょうか。	購入材を想定しています。
3	設計図 土工 本線 P57～59/125 (STA. 989+20～990+20)の切土面積(数量表)において、土砂と表土の合計面積と合計欄の値が異なります。 どちらが正しいか、ご教示願います。 また、表に記載の土砂面積と合計欄から逆算した土砂面積(土砂=合計-表土)で土砂Aの土量(m3)を算出した場合、逆算した土砂面積を使用した方が、数量明細表の値と近くなるため、お間違いがないかご確認下さい。	合計欄の記載に誤りがありましたので、後日訂正します。
4	設計図 土工 本線 P79～85/125 (STA. 1002+76. 469～1006+00)の表層排水工施工箇所の数量表(STA. 1021+20～1022+40、STA. 1023+00～1030+00も同様)において、表に記載の路体面積は、敷砂の面積が予め控除されている(改めて控除する必要はない)と考えてよろしいでしょうか。	ご認識のとおりです。
5	設計図 土工 本線 P79～85/125 (STA. 1002+76. 469～1006+00)の表層排水工施工箇所(STA. 1021+20～1022+40、STA. 1023+00～1030+00も同様)において、路体盛土の土量は図表の路体(+築堤盛土)面積に沈下量を加算(余盛り)したものと考えてよろしいでしょうか。	ご認識のとおりです。

番号	質問事項	回答
6	<p>特記仕様書28-3-3 (1)種別 構造物掘削 普通部A の区分内容において、「2) 掘削箇所における埋戻し」と記載されていますが、当該項目(補強土壁工、軽量盛土工、管渠工、擁壁工)の数量表を確認すると、埋戻しは全て客土掘削となっています。</p> <p>よって、掘削土は全て本体盛土路体部への流用と考えてよろしいでしょうか。</p> <p>埋戻しがある場合は、数量を提示して頂けないでしょうか。</p>	<p>掘削土は全て本線盛土への流用となります。</p>
7	<p>特記仕様書28-3-3 (1)種別 構造物掘削 の区分内容において、「3) 本線盛土路体部への運搬、敷均し、締固め」とあります。</p> <p>当該数量表から掘削土量(残土)を算出すると約4万m<sup>3</sup>となりますが、この全てを本体盛土路体部へ流用すると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>仮に一部のみ流用の場合はその数量、また残りの土砂の処理方法をご教示下さい。</p> <p>参考までに設計図より路体盛土量(路体+築堤盛土+沈下量-路体控除)を算出すると約50.7万m<sup>3</sup>です。</p> <p>上記掘削土量を除いた設計切土補正土量(表土 1.7万m<sup>3</sup>+土砂A 10.5万m<sup>3</sup>+軟岩A 3.1万m<sup>3</sup>+客土掘削(本線分) 31.3万m<sup>3</sup>+盛土工B1 5.3万m<sup>3</sup>)が既に約51.9万m<sup>3</sup>ありますので、仮に本線で流用しなくても盛土材料は過多となっています。</p> <p>上記流用の有無に併せて、客土掘削および盛土工B1の数量もご確認願います。</p>	<p>掘削土は全て本線盛土への流用となります。</p> <p>なお、土量については数量に誤りがありましたので、後日訂正します。</p>
8	<p>特記仕様書28-3-2 (1)種別 盛土工 B1 の区分内容において、「1) 本線盛土路体部への他工事受入れ土の敷均し、締固め」とあります。</p> <p>この他工事受入れ土は「特記仕様書6-1-1 土取場の位置」に記載されている①トナムIC盛土場と②トナムIC Cランプずり置場のトンネルずりでしょうか。</p> <p>その場合、仮置きされたずりを掘削、積込み、運搬すると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>それとも、他工事から直接盛土路体部へ運搬すると想定されているのでしょうか。</p>	<p>特記仕様書28-3-2「盛土工」に記載の通りです。</p>

番号	質問事項	回 答
9	<p>特記仕様書28-3-1 (1)種別 客土掘削 土砂A の区分内容において、「1) 落合地区ずり置場における土砂の掘削、積込み」とありますが、客土掘削 土砂Aの全土量(設計数量356,324m<sup>3</sup>)を落合地区ずり置場から運搬すると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>それとも、「特記仕様書6-1-1 土取場の位置」に記載の①トマムIC盛土場および②トマムIC Cランプずり置場からも運搬するのでしょうか。</p> <p>①および②からも運搬する場合、①、②、③それぞれの置き場からの想定運搬土量を提示して頂けないでしょうか。</p>	<p>土取場は、特記仕様書6-1-1「土取場の位置」に記載の3箇所となります。</p> <p>なお、客土掘削については後日訂正いたします。</p>
10	<p>特記仕様書6-1-1 土取場の位置に記載されている①トマムIC盛土場と②トマムIC Cランプずり置場において、仮置されるトンネルずりは本工事盛土箇所に干渉するため掘削・積込み・運搬が必要となりますが、費用の計上先が不明です。</p> <p>計上先は単価番号5.客土掘削でしょうか。</p> <p>それとも他工事で移動するのでしょうか。</p>	<p>本工事盛土箇所に影響がないものと想定しています。</p>
11	<p>設計図 管渠工 5/13 遠心力鉄筋コンクリート管一般図の数量表において、階段水路工の数量が見当たりませんが、階段水路工の施工に要する費用は単価番号94.遠心力鉄筋コンクリート管で計上するのでしょうか。</p> <p>計上する場合、数量を提示して頂けないでしょうか。</p>	<p>遠心力鉄筋コンクリート管一般図の数量表に階段水路工の数量が明記されていませんでしたので、後日訂正します。</p>
12	<p>【特記仕様書28-3-1 道路掘削、客土掘削 28-3-2 盛土工】</p> <p>【数量明細書(参考)数量明細書(1/16)】</p> <p>28-3-1 道路掘削、客土掘削(2)施工に「トマムIC付近(STA.1028+20～STA.1030+00)における客土掘削については、盛土速度「10cm/日」の緩速施工で実施するものとする。」とあります。</p> <p>また、28-3-2 盛土工(3)施工にも同様に、「トマムIC付近(STA.1028+20～STA.1030+00)における客土掘削については、盛土速度「10cm/日」の緩速施工で実施するものとする。」とあります。</p> <p>数量明細書(参考)数量明細書(1/16)の番号2本線トマムIC～清水十勝IC間の数量は盛土工B1のみ計上されております。</p> <p>緩速施工に使用する材料は、客土掘削土砂Aと盛土工B1の両方を想定されておりますでしょうか。</p> <p>もしくは、盛土工B1のみでしょうか。</p>	<p>緩速施工に使用する材料は、客土掘削土砂Aと盛土工B1の両方を想定しており、数量明細表については後日訂正いたします。</p>

番号	質問事項	回答
13	単価番号4__道路掘削硬岩Aについて、閲覧資料の中トマム地区道路詳細設計6-276～280にて発破による施工時留意点と騒音・振動による対策工を提案すると記されておりますが、当工事ではそれを見込んでいるのでしょうか。または通常発破による岩掘削を見込んでいるのでしょうか。	特記仕様書28-3-1「道路掘削、客土掘削」に示す通り機械掘削を想定しています。